

**【第281号 紙面案内】**

第2～3面……第67回全国研究大会プログラム

第4～7面……常任理事会報告、各部会の活動報告・開催案内

議論をしようか！

総務委員長 小畠 正稔（東洋大学）

加藤会長は本年の年頭の挨拶の中で、日本マネジメント学会を「将来を担う若手研究者や産業界の方々に交流の場を提供し、日本の産業・企業のあり方や経営者を含む人材教育の進むべき方向性について多様な活発な議論を展開してもらおう場」であるとした。

多様な議論を展開する場という視点から学会の研究報告を見ると、部会単位では活発な議論が行われているが、全国大会などでは時間が限定されているせいか、通り一遍の質疑応答に留まっているものが多い。「交流の場」は、「議論の場」でなくてはならない。報告者の磨き上げられた研究成果と討論者の考え尽くされた意見の出会いの「場」には議論が欠かせない。報告会場の廊下であろうと、懇親会の会場であろうと、場所を選ばず続けられる程、熱い議論だ。議論は成果を磨く。

経営学がいつの間にか経営学だけのものになり、学会報告が業績を積み上げるためのものになっているという側面が少しでも垣間見られるようなら、実践経営学を礎にした日本マネジメント学会は存在意義を問われるに違いない。学会のアイデンティティは議論から生み出されてくる成果と成果の社会への還元にある。

そして若手研究者に議論を求めるためには、経験豊かな会員には、問題提起をお願いしたい。日本の企業が直面する議論すべき課題（マネジメント課題）を、全国大会の場、ジャーナルの誌上で示していただきたい。ここから「場」は作られ、議論が開始される。

総務委員会も議論を展開する「場作り」を進めている。例えばインターネットを活用した情報の受発信機能の拡充もその一つである。会報は発行と同時にホームページに掲載される。全国大会の報告者の募集、準備状況、開催案内、そして部会の開催情報などを適時に掲載することで、会員活動を後方支援している。そしてこれらをデータベース化することで、会員が各自で学会情報を整理したり、保管したりすることなく利用することができる。また情報交換の道具である会員名簿の発行時期を6月に遅らせた。会員の所属の異動、住所変更は4月に集中することから、従来の年明け発刊から、5月末までに異動情報の集約、6月の全国大会をにらんだ発行に変更した。これも会員同士の情報交換の基礎を整備する場作りの一つである。

議論しようか！日本マネジメント学会のアイデンティティはここから作られる。

日本マネジメント学会第67回全国研究大会プログラム

統一論題 「企業による地域経営圏の構築」

会場：和光大学

第1日 2012年6月7日(金)

14:00～17:00 企業見学 株式会社ミットヨ
18:00～ 理事会

第2日 6月8日(土)

9:00～ 受付
9:30 会長挨拶 日本マネジメント学会会長 加藤茂夫
挨拶 インドネシア共和国大使館 イグナティウス・ワルシト
開会挨拶 第67回全国研究大会実行委員会委員長 福田好裕

9:50～15:40 統一論題セッション（報告：各40分 討論70分 計150分）(J401教室)

9:50～12:20	統一論題セッション1
報告者(1)	鈴木和哉(独立行政法人国際協力機構 財務部)
報告テーマ(1)	JICA 技術協力事業の具体的事例
報告者(2)	芦澤成光(玉川大学)
報告テーマ(2)	コアのビジネスモデルと新規のビジネスモデルの調整と海外戦略
コメンテーター	海老澤栄一(神奈川大学)
司会者	佐々木利廣(京都産業大学)

12:20～13:10 休憩

13:10～15:40	統一論題セッション2
報告者(1)	瀬藤裕己(パシフィックコンサルタンツ株式会社)
報告テーマ(1)	企業による地域経営圏の構築 ―インドネシア・バンドン市の考察―
報告者(2)	幸田浩文(東洋大学)
報告テーマ(2)	近江商人による地域経営圏の構築 一家訓「三方よし」概念を手がかりとして―
コメンテーター	村上良三(ハリウッド大学院大学)
司会者	堀田友三郎(東海学園大学)

15:50～16:40 会員総会(J401教室)

16:50～18:00 特別講演(J401教室)

報告者	田中孝明(株式会社東芝顧問、元執行役常務、中国総代表)
報告テーマ	日本企業は中国でどう戦うか ～グローバル化の試金石～
司会者	福田好裕(和光大学)

18:55～ 懇親会(ホテル ザ・エルシィ町田)

第3日 6月9日(日)

9:00

受付

9:30 ~ 12:00

統一論題セッション(報告:各40分 討論70分 計150分)(J401教室)

9:30 ~ 12:00	統一論題セッション3【テーマ3】
報告者(1)	バンバン・ルディアント(和光大学)
報告テーマ(1)	インドネシア・アズ・ナンバー・ツー
報告者(2)	水尾順一(駿河台大学)
報告テーマ(2)	BOP ビジネスの変容: 戦略的 CSR から CSV へ、その要諦と展開
コメンテーター	笠原伸一郎(専修大学)
司会者	手塚公登(成城大学)

12:00 ~ 12:40 韓国経営教育学会講演(J401教室)

報告者	Young Na, PhD (Professor of Accounting, President of KABE (Korea Association of Business and Economics) College of Business and Economics, Chung-Ang University, Seoul, Korea))
報告テーマ	KABE President's Greetings and Introduction to the Issues on IFRS Implementation
司会者	文 載皓(常葉大学)

12:40 ~ 13:40 休憩

13:40 ~ 15:50 自由論題報告(各報告 報告:25分 コメントおよび質疑:15分 計40分)

13:40 ~ 14:20	A会場(D202教室) (自由論題)	B会場(D203教室) (自由論題)	C会場(D204教室) (国際セッション)
報告者	水野清文(奈良産業大学)	清水雅貴(和光大学)	曹佳潔(京都産業大学)
報告テーマ	食品関連企業にみる商品差別化戦略-地域特性を活かしたPB商品と製販連携-	農業分野における農業経営指標を活用した省CO ₂ 効果の測定と消費者への教育効果に関する研究	二つの協働によるBOPビジネスの現実-日本企業三社の事例を中心に-
コメンテーター	榎田智子(福山市立大学)	木全 晃(香川大学)	加藤 巖(和光大学)
司会者	城田吉孝(東京福祉大学)	新川 本(長崎県立大学)	谷井 良(明星大学)
14:25 ~ 15:05	(自由論題)	(自由論題)	(国際セッション)
報告者	當間政義(和光大学)	東 俊之(金沢工業大学)	Chung, Yanghon (KAIST: Korea Advanced Institute of Science and Technology)
報告テーマ	植物工場におけるビジネス化の可能性	創発的組織間コラボレーションの検討と実践性	A Comparison of Evaluation Methods for Research Projects
コメンテーター	細野賢治(広島大学)	間嶋 崇(専修大学)	
司会者	田口智子(北翔大学)	大平義隆(北海学園大学)	中村久人(東洋大学)
15:10 ~ 15:50	(自由論題)	(自由論題)	
報告者	宮島 裕(目白大学大学院)	小野瀬拓(九州産業大学)	
報告テーマ	企業の現地化における戦略的視点の必要性についての一試論	なにかが長寿企業を長寿にするのか	
コメンテーター	大野和巳(文京学院大学)	坂井 恵(千葉商科大学)	
司会者	平屋伸洋(敬愛大学)	杉山三七男(静岡産業大学)	

15:50

閉会挨拶 日本マネジメント学会組織委員会委員長 辻村宏和

常任理事会報告

平成 25 年 3 月 18 日、東洋大学白山キャンパスにおいて常任理事会が開催されました。議事について、以下の通りご報告いたします。

(1) 第 67 回全国研究大会について

統一論題セッション、特別講演の登壇者および韓国経営教育学会会長講演について議論された。各セッションの依頼が確定次第、大会プログラムとして編成し、大会準備委員会へ引き継ぐことが承認された。

(2) 今年度活動経過報告について

- ・総務委員会：名簿の編集作業についての説明と協力の依頼があった。
- ・機関誌編集委員会：機関誌 16 巻第 2 号の編集作業が順調に進んでいることが報告された。
- ・国際委員会：次回大会での韓国経営教育学会との交流事業について説明があった。また、学会国際交流への功績に元国際委員会委員長・吉田優治会員に対して、次回の総会で感謝状と記念品の授与をする希望が述べられ、承認された。
- ・会報委員会：会報は予定通り発行されており、現在第 280 号を準備中であること、6 月の大会プログラムは第 281 号に掲載予定であることが報告された。

(3) 第 68 回全国研究大会について

平成 25 年 10 月 18 日～20 日、九州産業大学において、篠原淳実行委員長のもとで開催されることが承認された。なお、第 69 回全国研究大会の開催校が文京学院大学に決定したことが報告された。

(4) 会員の入退会について

新入会員 4 名、退会会員 18 名が承認された。この結果、会員数は個人会員 698 名、法人会員 4 社となった。今後とも会員の拡充に努力することを確認した。

◇◇北海道・東北部会の活動報告◇◇

部会長 大平 義隆（北海学園大学）

平成 24 年度北海道・東北部会が、3 月 24 日（日）に宮城県石巻市で開催されました。郷土料理店を経営する大森信治郎氏（石巻専修大学特命教授：観光学）の「石巻の震災後の観光の展望」と題する講演から始まり、次に被災地を視察した上で、須能邦雄氏（石巻魚市場株式会社代表取締役）の講演「石巻の水産業の復興について」、平塚隆一郎氏（山徳平塚水産株式会社代表取締役）の講演「被災後の事業継続と新たな取り組み」、そして、李東勲氏（石巻専修大学：学会員）による「被災企業の支援活動」と題する報告が石巻魚市場会議室で行われました。瓦礫は撤去されたものの遅々として進まない復旧・復興の現実を目の当たりにし、被災地における経営の難しさを改めて認識させられた研究会でした。

◇◇中部部会開催のご案内◇◇

藤木 善夫（東海学園大学）

中部部会では、経営行動研究学会、経営哲学学会との3学会合同で、下記のとおり第47回中部部会を開催いたします。皆様奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

●日時：平成25年6月29日（土） 13:00～17:30

●場所：東海学園大学栄サテライト

●プログラム

報告（報告35分、コメント10分、質疑15分）

第1報告：13:00～14:00 山口 正彦（愛知学院大学大学院経営学研究科研究員）

「新たな収益認識モデルにおける複数構成要素契約の検討（仮題）」

司会・コメンテータ：友杉 芳正（東海学園大学）

第2報告：14:00～15:00 亀倉 正彦（名古屋商科大学）

「Resource-Based View と地域活性化についての一考察

～JA あいち尾東の特産化プロジェクトを事例にして～」

司会・コメンテータ：櫻井 克彦（東海学園大学）

第3報告：15:00～16:00 伊藤 賢次（名城大学）

「経営における組織文化の重要性ートヨタ自動車を事例としてー」

司会・コメンテータ：蕎麦谷 茂（愛知産業大学）

<15分休憩>

講演（講演50分、質疑10分）

16:15～17:15 今光 廣一（愛知学院大学）

「トヨタ生産方式とテイラーシステムおよび名高商國松豊教授」

司会：堀田 友三郎（東海学園大学）

議事：17:15～17:30

中部部会長 堀田 友三郎（東海学園大学）

(0561-36-5555、hottat@tokaigakuen-u.ac.jp)

参加費等：参加費500円、懇親会費4,000円

懇親会参加と出席連絡のお願い：懇親会にご参加いただける方は6月22日までに、中部部

会事務局・藤木善夫（東海学園大学 みよし市福谷町西ノ洞21-233

TEL：0561-36-5555、fujiki@tokaigakuen-u.ac.jp）までご連絡ください。

お問い合わせ：詳細につきましては、上記の藤木宛にお問い合わせください。

※中部部会では随時報告者を募集しております。ご希望の方も上記の藤木宛にお知らせください。

◇◇関東部会からのお知らせ(報告者の募集)◇◇

関東部会長 手塚 公登 (成城大学)

下記の通り平成25年度第2回関東部会を開催します。ご参加の程、よろしくお願ひ申し上げます。プログラムの詳細につきましては学会ホームページをご覧いただければと存じます。

なお、関東部会では随時報告者を募集しておりますので、報告を希望される方は応募先までご連絡をお願ひ申し上げます。

1. 日 時：平成25年7月20日(土)
2. 場 所：専修大学(神田キャンパス)
3. 報告の応募先：手塚 公登 (tezuka@seiyo.ac.jp、TEL：03-3482-9298)

◇◇関西部会からのお知らせ(報告者の募集)◇◇

関西部会長 佐々木 利廣 (京都産業大学)

下記の通り平成25年度第1回関西部会を開催いたします。ご参加くださいますようお願いいたします。現在報告者を募集しております。報告を希望される方は、報告タイトル等(仮題でも結構です)を5月31日(金)までに下記の幹事まで御連絡くださいますようお願い申し上げます。

なお関西部会では随時報告者を募集しております。

1. 日 時：平成25年6月29日(土) 午後1時30分～午後8時(含懇親会)
2. 場 所：関西大学100周年記念会館(電話：06-6758-7733)
3. その他(報告の応募先)
部会幹事 曹 佳潔(京都産業大学大学院) jiajiecao@cc.kyoto-su.ac.jp

◇◇中国・九州部会の活動報告◇◇

大塚 知弘 (日本経済大学)

平成25年3月23日(土)13時30分より、「平成24年度 第2回中国・九州部会」が日本経済大学福岡キャンパス(プレゼンテーション・ルーム)で約30名の参加者を得て開催された。

第一報告は、小野瀬拓氏(九州産業大学)の「九州の長寿企業の特徴」で、九州に限定した長寿企業の調査をもとに、経営理念・キャリア意識・地域性の点から長寿企業の傾向をあきらかにする精緻な報告が行われた。開催校である日本経済大学では、東日本



石村 健悟 氏

大震災以降、後藤俊夫氏を委員長とする「老舗企業復興支援シンポジウム」を主催しており、本学会員以外にも多くの参加者を得た注目の報告となった。

第二報告は、李少燕氏（福岡大学大学院）の「中国におけるCSRの現状と課題」で、環境問題が深刻化している現在、中国企業がどの程度CSR活動を意識し、実践しているかという大変に興味深い報告であった。中国が高度経済成長から安定した成長への転換を成し遂げる上で、中国企業の社会的責任に対する研究は、今後、さらに重要性を増すテーマであり、フロアーからは多くの質問と意見が寄せられた。

休憩を挟んで総会が行われた。報告事項として新役員および新幹事が紹介された。審議事項として、1. 全国大会の開催について、2. 中国・九州部会の運営に関する意見交換が行われ、より実践的な経営を学び合う会として、実際に経営に携わられている方の報告や講演を増やしていくなどの意見が出された。

第三報告は、後藤浩士氏（日本経済大学）の「パブリシティ権に関するリスクマネジメントー近年の裁判例の動態的考察ー」で、現在の高度情報化社会において展開される多様なメディアを組み合わせた広告戦略に潜むリスクマネジメントという斬新なテーマであり、意欲的な発表であった。先行研究の少ない新しいテーマを最新の判例を用いて分析し、実践経営への活用を意識した学会の趣旨に即した報告であった。

第四報告は、光岡延幸氏（福岡女子短期大学）の「組織開発について」で、「変える」と「変わる」をキーワードに、グローバル化、イノベーションへのアジルな対処といった切り口で、組織変革の手法を体系的に分析した報告であった。階層的組織と、ネットワーク型組織の併用という、新たな組織変革の姿を考察した、混沌とした経済状況下にある日本企業が必要としている実践的な研究であった。

その後、休憩を挟んで、特別講演が開催された。講演者はホワイトデーを世に広め、また、老舗企業でありながら、常に時代の変化に柔軟に対応し、進化を続ける株式会社石村萬盛堂代表取締役の石村僊悟氏であった。「守、破、離」、「守……先人の歩んだ道を守る」、「破……革新の手を加える」、「離……自分の独自の道を築く」という三つの柱を中心に、「鶴乃子百年」というテーマで老舗企業の実践経営をお話しいただいた。最新のハイテク産業にも、多くの老舗企業の技術が生かされていることなど、伝統をただ守るだけではない、永く存続する企業の秘訣について講演され、フロアーの雰囲気も最高潮に達した。

報告終了後は、二日市駅前の「浜太郎」にて、石村僊悟氏にもご参加いただき、中国・九州部会の特徴でもある大変に親睦の密度の濃い懇親会を楽しく有意義に行うことができた。会員の近況報告、および平成25年度の全国大会に向けて、会員が団結して万全の準備をしていくことを確認し、解散となった。

◇◇中国・九州部会からのお知らせ(報告者の募集)◇◇

中国・九州部会長 篠原 淳（日本経済大学）

平成25年度第1回中国・九州部会を8月から9月中に九州産業大学にて開催します。現在、報告者を募集しています。報告を希望される方は下記までご連絡下さい。

<連絡先> 篠原 淳（日本経済大学）(shinohara@bird.ocn.ne.jp)

第68回全国研究大会・自由論題報告募集

平成25年10月18日(金)～20日(日)に九州産業大学において開催される第68回全国研究大会における自由論題報告を募集します。下記要領に従ってご応募下さい。

1. 応募資格

本学会の会員。ただし、1年以内に報告された方の応募はご遠慮下さい。

2. テーマ

本学会の目的に沿う以下のもの

- ・経営体の諸活動に関する実践的経営の研究
- ・日本の経営および国際的経営の研究
- ・経営者・管理者の実践的能力を育成するための経営教育の研究

3. 応募書類

応募には表紙、報告要旨、参考文献の3点が必要です。

- ・表紙(A4サイズ1枚)……以下を必ず明記してください。
 - ①氏名(漢字・仮名および英語表記) ②報告テーマ ③所属(現職および職位)
 - ④連絡先(自宅および所属先の電話番号・FAX番号、E-mailアドレス)
- ・報告要旨(A4サイズ、用紙縦置き横書きで2枚以内)
要旨には問題意識、論点、結論等を必ず含めてください。
 - ①字数は2,000字以内(40字30行)、10.5ポイント、余白は上下左右各25mm
 - ②報告テーマはゴシック体、要旨は明朝体
- ・参考文献(A4サイズ1枚)……書式は報告要旨に準じます。
参考文献は内容と密接に関係するものにとどめ、関係の薄いものは控えてください。
上記書類を下記締め切り期日必着にて電子メールまたは郵送でお送りください。

4. 締切

平成25年7月16日(火) 必着

5. 応募先・問い合わせ先

日本マネジメント学会事務局(担当:魚住 良三)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4 (株)山城経営研究所内

TEL: 03-3264-2100 FAX: 03-3234-9988 E-Mail: name@kae-yamashiro.co.jp

本欄～会員の最新刊著書を紹介します～

- ・幸田浩文『米英マネジメント史の探究』 学文社 2,800円+税 2013年1月
- ・兪 成華『日中合弁企業のマネジメント』 ミネルヴァ書房 6,500円+税 2013年4月

*会員の皆さまの最新刊著書をご紹介します。事務局への献本(1冊)をお願い致します。

編集後記

来月開催されます第67回全国研究大会のプログラムを掲載致しました。また、各部会も活発に開催されております。大会などに一人でも多くの方々がご参加頂けますようお願い申し上げます。
会報委員会一同

発行 **日本マネジメント学会**
(旧称:日本経営教育学会)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4
株式会社山城経営研究所(担当:魚住)
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 (株)ドットケイズ TEL 03-5206-1626
E-mail: win@good-ks.co.jp